

のぞいてみよう! 命を守る、救急の現場

急な病気やけがの際、いち早く現場へ駆け付けける救急隊。市民の命を守る救急の現場では、どんな人が、どんな思いで働いているのでしょうか。救急救命士の土井和貴さんに話を聞きました。

— 消防署の職員を目指した理由は？

吉田高校出身で、担任の先生に勧められたことがきっかけです。消防の仕事に触れるうちに、人命を守ることの使命に共感するようになりました。特に市民の皆さんからいただく感謝の言葉が大きなモチベーションとなっています。

— 救急隊ではどんな働き方をしていますか？

救急隊は消防署の中で最も出動が多く、年間約1,700件の救急要請に対応しています。24時間勤務なので、オン・オフの切り替えが大切。まずは救急車の資機材を点検し、出動に備えます。出動がない時間帯は、消防隊員と一緒に訓練や筋力トレーニングをし、指令が入ればすぐに気持ちを切り替えて現場へ向かいます。

救える命を増やしたい

できることを増やし、



— 目標はありますか？

できることをもっと増やしたいと思い、約7か月間、救急救命士養成所で学び、国家試験に合格。今年4月に救急救命士になりました。救命士として知識や技術を磨き、一人でも多くの命を救いたいです。また、傷病者やご家族の不安な気持ちに寄り添うことも大切にしたいです。

救急車には何がある？

命をつなぐ資機材を紹介!

携帯型モニタリング機能付除細動器



血圧や心電図などの測定に加え、心臓の状態が悪い人に電気ショックを与えます。

吸引器



喉や口の中に詰まった物や液体を吸い取ります。

酸素バッグ



酸素ボンベやマスクを備え、呼吸状態の悪い人に酸素を投与します。

救急バッグ



点滴セットや呼吸を助ける道具が入っています。

外傷バッグ



けがした人を手当する道具が入っています。

自動心臓マッサージ器



心肺停止となった傷病者に対して、人の手と同等またはそれ以上の安定した胸骨圧迫を継続できます。

救急車の中にはさまざまな資機材が備えられ、救急隊員は傷病者の状態を確認しながら、必要な処置を行います。

救急車の適正利用をお願いします

限りある救急車を必要な人に確実に届けるため、救急車の適正利用にご協力をお願いします。

救急車を呼ぶか迷ったら

#7119

急な病気やけがで、救急車を呼ぶべきか迷ったときは、医師や看護師に電話で相談できる「#7119」を利用してください。緊急性の判断や、受診の目安を教えてください。

子どもの体調が心配なときは

#8000

夜間や休日に、子どもの急な発熱や体調不良で不安なときは、小児救急電話相談「#8000」へ。小児科医師や看護師が、家庭での対応方法や受診の目安をアドバイスしてくれます。

予防課 ☎42-3951 お太助フォン 42-3952 ☎47-1191

市ホームページ▶



安芸高田 歴史紀行

あきたがた
れきしきこう

シリーズお城拝見 | 第102回

芸備線と駅近の城

(向原町・甲田町)



歴史民俗博物館
副館長
秋本 哲治



B 田屋城中心部の石垣、石列と土塁



JR芸備線沿線城跡位置図
(地理院地図Vectorに加筆)

「向原駅」周辺の城跡

A 日下津城(坂) (市史跡)

毛利一族坂氏の山城で、南北朝期に武田氏が攻撃した記録が残ります。急峻な堀切や堅堀が見どころ。

B 田屋城(長田) (市史跡)

中郡衆として毛利家臣となった内藤氏の山城。石垣、土塁、堀切や井戸跡などがよく残ります。

「向原」は本来、「向井原」という駅一帯の狭い地域名称でしたが、1915年の開業時に村名の坂駅ではなく、向原駅となりました(向原村の誕生は1929年)。なお、1930〜1941年の間に、長田と戸島にガソリンカー専用駅が設置されていました。

現在、歴史民俗博物館では企画展「安芸高田芸備線物語」を開催中です。そこで今回は、本市に所在する3つの駅から徒歩圏内(2km以内)に残る主な城跡を紹介します。JR芸備線に乗って、史跡巡りはいかがですか？

「吉田口駅」周辺の城跡

C 長見山城(上小原・下小原) (市史跡)

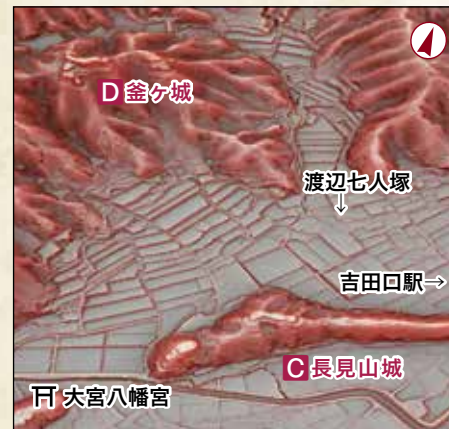
毛利家臣渡辺氏の居城で、こちらの建つ丘陵上に残ります。付近には、渡辺一族を弔う「渡辺七人塚」が残ります。

D 釜ヶ城(下小原) (市史跡)

南北朝期の毛利氏の山城で、戦国期には三上氏の城と伝わりますが、南東へ700mのCとの関係も深そうです。

「吉田口」駅は下小原にあります

が、開業当時の吉田町からの強い要請で駅名が決まりました。小原は古代より「麻原」と記され、南北朝期から毛利一族が土着し、麻原氏と名乗りました。



C 長見山城・D 釜ヶ城赤色立体地図(鳥瞰図)



E 五龍城遠望(北東から撮影)

「甲立駅」周辺の城跡

E 五龍城(上甲立) (県史跡)

有力領主穴戸氏の居城として知られ、細長い尾根上に長大な遺構が残ります。

F 柳ヶ城(上甲立)

E から北700m、当初の穴戸氏の城と伝わります。甲立古墳が隣接し、併せて見学できます。

「甲立」駅は甲立ではなく高田原にあります。開業当時、駅周辺より甲立の五龍城山麓一帯(旧出雲街道)がにぎやかだったためです。ちなみに甲立の語源は古代の「川立郷」と考えられ、戦国期には甲立は穴戸氏の本拠として発展していきます。